記者が選んだ
この1枚
2024

12月 高岡

高岡会館が照明施設賞

谷口建築の美に納得

11日夕、取材先から戻った富山新聞高岡会館の2階ラウンジでゴスペルが響いた。富山新聞文化センターのゴスペル講座の受講生が外国人講師とハーモニーを披露した。ゆらゆらと波紋が立つ水庭の美しい空間と伸びやかな歌声に癒やされ、しばし聴き入った。

高岡会館は、世界的建築家の谷口吉生（よしお）氏が手掛けた県内唯一の建築物である。照明学会（東京）の2024年照明施設賞に輝いた。19日に高岡会館で開かれた照明学会北陸支部主催の照明セミナー&見学会で、モダンでおしゃれな意匠を駆使した「谷口建築」の素晴らしさに改めて納得がいった。

「谷口建築は照明器具を目立たせず、光だけがそこに存在するというのが基本」。セミナーで、谷口氏とともに照明デザインを手掛けた「Lumimedia lab」（東京）の岩井達弥代表が谷口建築の美と哲学を説明した。

2階ラウンジは天井のルーバー（羽板）に照明器具を隠して、光が室内に落ちるように見せた。水庭は水が流れ落ちる部分に光源が設けられ、庭全体が幻想的に浮かび上がる。

北陸支部長の秋月有紀富大教授は「水庭だけでなく、階段や展示スペース、壁面などあらゆる箇所で、谷口建築の精緻なデザインに沿うように照明が施されている」と評価した。細部に妥協しない一流の技に驚くばかりだった。

天から見守ってくれる

16日、谷口氏は87歳で鬼籍に入った。谷口氏は高岡会館を利用する人たちの心を和ませ、豊かにできるかを建築コンセプトの「1丁目1番地」に据えていたという。完成から2年余り、多くの人が集い、笑顔を広げる拠点となった高岡会館を天から見守ってくれているだろう。

（高岡支社・麻本和秀）

高岡会館の2階ラウンジや水庭を見学するセミナーの参加者＝19日、富山新聞高岡会館